

子どもの居場所新聞

居場所新聞

2023年8月
発行者
有倉花

近年、「子ども食堂」や「子どもの居場所」など、子どもが安心して過ごせる場所が、全国各地で増えています。学校で学んでいる子どもたちにとって、居場所とは、学びの場、交流の場、憩いの場、そして、自分らしく過ごせる場所です。本紙は、子どもたちの居場所に関する情報を提供し、子どもたちの居場所づくりを支援することを目的としています。

子どもの居場所ってどんな所!?

子どもが一人でも立ち寄れる
安心して利用できる居場所です!

① 地域で子どもを育て、見守る場

地域の子どものために居場所を提供し、食事やたんぱく質、学習支援、多世代交流など、様々な経験の機会を提供する場です。地域全体で子どもを育てる場です。

② 時間を共有する場

居場所に集う人々とともに、安心して過ごすことのできる時間と空間を共有することにより、子どもが自分らしくいられる場になります。

③ 多世代交流・体験活動の場

子ども達が学年のちがう仲間や大人たちと一緒に遊び、さまざまな体験を通じた交流など、つながりを深めます。屋内施設、屋外体験活動、訪問による体験交流の場などがあります。

北斗市にある「子どもの居場所」

- ① 地域食堂まんまる 子ども食堂
(いつ) 毎月1回土曜日
(どこ) 広徳寺・かたて〜
(料金) 200円(企業からの寄付がある場合、無料)
- ② 七重浜子ども食堂
(いつ) 毎月1回
(どこ) 発酵カフェ hapo
(料金) 中学生まで無料
(現在休館中)
- ③ しゅくだいカフェ
(いつ) 平日15:00~18:00
(料金) 完全無料

☆各地で「子どものために何かしたい」という人たちの強い思いと、各地域の資源の状況に応じて多様な取組が行われています。

インタビュー

代表 高橋佑実さん



「地域の子ども食堂」に参加しました!

「地域の子ども食堂」に参加しました! 高橋佑実さん(代表)は、地域の子ども食堂に参加し、子どもたちの居場所づくりを支援しています。高橋さんは、地域の子ども食堂に参加し、子どもたちの居場所づくりを支援しています。高橋さんは、地域の子ども食堂に参加し、子どもたちの居場所づくりを支援しています。

子ども食堂に参加しました!

- 11:30 集合・準備
少し早く行き、リンゴの皮むき手伝い。
- 12:00 いただきます。
<メニュー>
・きょうぞう弁当
・きょうぞうの王将
・さんからの提供
・デザートなど
- 12:45 みんなで協力
ごちそうさま 後片付け
- 13:00
外で「モルック」をして遊ぶ。
- 14:00 解散。



みんなの好きな場所 しゅくだいカフェ

～たくさんの方に取り組みました! 一部を紹介します～

- ① 未来の地球を守るための活動
・フードロス削減 (SDGs)
→食材提供を受けてのおやつ作りなど
・海の豊かさを守ろう! 海岸クリーン作戦
- ② さまざまな体験教室
テーマ「未来の夢を叶える」津波先生になろう! 「地元の鉄道まるごと体験」、「街たんけん」など。
- ③ 子ども会議
→自分の未来、自分の住む地域環境について考えました。



「しゅくだいカフェ」私の想い!

勉強や遊びだけでなく、人とのふれあいや、たくさんの方の体験活動を通して、問題解決のために考えて行動する力を育ててほしい。また信頼できる大人や仲間と出会うことも私の大切な宝物になりました。



「子どもの居場所」づくりのために、多くの方が関わってくださっていることを知り感謝の気持ちでいっぱいです。また居場所の運営には活動場所や食材スタッフ資費の確保が課題であることもわかりました。私も将来子どもが安心して過ごせる居場所づくりに関わってまいります。

編集後記

「子どもの居場所」づくりのために、多くの方が関わってくださっていることを知り感謝の気持ちでいっぱいです。また居場所の運営には活動場所や食材スタッフ資費の確保が課題であることもわかりました。私も将来子どもが安心して過ごせる居場所づくりに関わってまいります。

函館市の「児童館」を見学しました。隣の函館市には24の児童館があり、子どもたちが安心して過ごせる居場所が充実しています。私も将来子どもが安心して過ごせる居場所づくりに関わってまいります。